

課題名称 子ども中心の(子ども参加を促す)学習普及ガイドラインの開発事業

実施機関 教育協力NGOネットワーク (JNNE)

課題代表者 片山信彦 (JNNE代表)

1. 目的

- (1) 子ども中心の(子ども参加を促す)学習(学校内外の活動)普及ガイドラインの開発
- (2) 子ども中心の学び、社会への子ども参加に焦点を当て、それを促す支援者(NGO、政府機関など)のための手引きをめざす

2. 活動

- (1) 研究会の実施
参加NGOによる子ども中心・子ども参加を促す取り組みの良い事例を共有し、意見交換を行い、知見を集約する。
- (2) 事例分析・ポイント整理
子ども中心の学び・子ども参加を促す活動の先駆的な事例を集め5つの視点で分析し、子ども参加を実施する際のポイントを整理する。
- (3) ガイドライン案の作成、編集
上記で出されたポイントを基に、ガイドライン案を執筆、編集する。
- (4) 現地での視察・検証
ガイドライン案の汎用性、妥当性を、実際に行われている事例を視察し、インタビューなどを通してさらに深く検証する。
視察・検証先: バングラデシュ 子どもクラブ by プラン・バングラデシュ
ネパール チャイルド・エンパワメント・センター by セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
- (5) ガイドライン案の修正、最終版の作成
検証作業を基にガイドライン案を修正し、完成させる(和文、英文)。
内容: パートⅠ 理論編 子ども中心の学び・子ども参加のあり方
パートⅡ 事例編 NGOの事例分析・子ども参加を促すポイント整理
パートⅢ 実践編 取り入れよう! 子どもが参加する取り組み

3. 成果

- (1) 期待する成果
 - ① 子ども中心の(子ども参加を促す)学びを実施するための分かりやすいガイドラインを作成する。
 - ② 開発途上国で教育開発に取り組む国内外のNGOや政府機関にとって、子ども中心の学びや子ども参加を理解し、実施するきっかけとなる。
- (2) 成果物
『子ども参加を促すガイドライン』(仮)(和文・英文)

子ども中心の（子ども参加を促す） 学習普及ガイドラインの開発事業

教育協力NGOネットワーク（JNNE）

開発途上国の教育の質・内容の改善の必要性

背景

生活水準の向上
生活環境の改善

学習達成度の向上

学びへの意欲の向上

子ども中心の学習
（学校内）

自尊の意識・
参加の態度（学校外）

- 教員中心から子ども・学習者中心の学習による、子どもの学びへの意欲と学習達成度の向上
- ただし、子ども中心の学習および子ども参加を促すための、政府関係者やNGOなど、支援者のための手引きは不十分である

目的

子ども中心の（子ども参加を促す）学習普及ガイドラインの開発

活動

① 研究会・ガイドライン案の作成

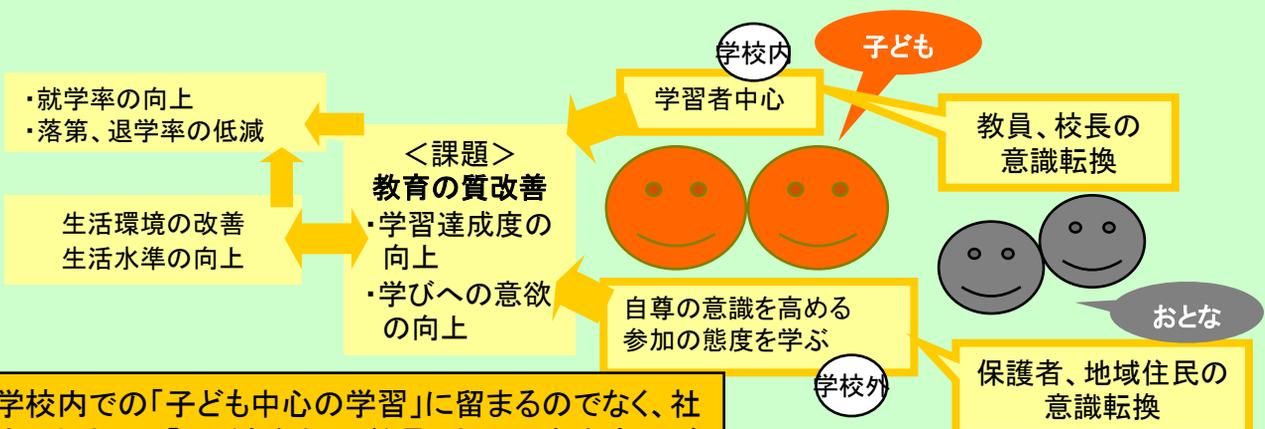
② 現地での視察・検証

「子ども参加を促すガイドライン」（仮）

理論編 子ども中心の学び・子ども参加を促す学習
事例編 事例分析・ポイント整理
実践編 取り入れよう！子ども参加を促す学習



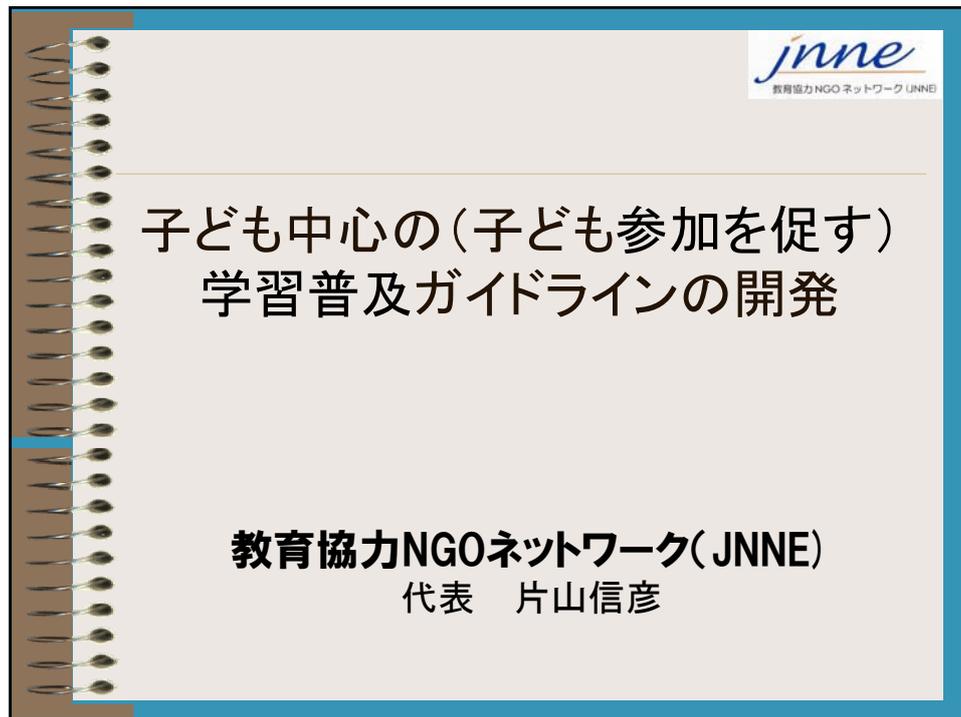
③ ガイドライン案の修正・最終版の作成（日本語・英語）



学校内での「子ども中心の学習」に留まるのではなく、社会・地域での「子ども参加」、教員・大人の意識変化が必須というのが、本ガイドラインの視点。

期待される成果

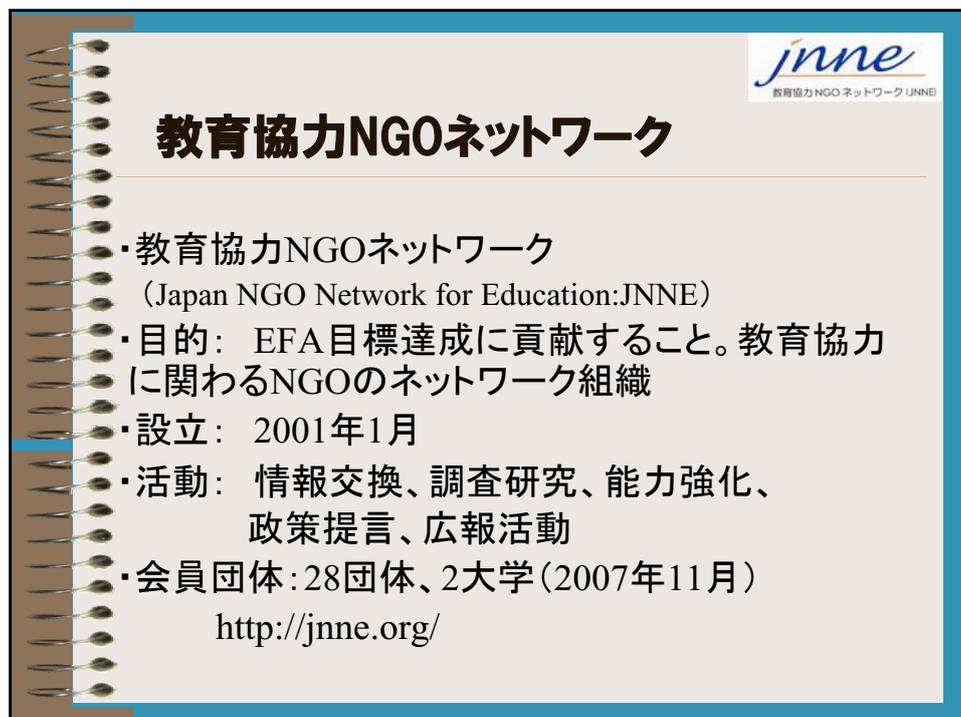
開発途上国で教育に取り組む国内外のNGOや政府機関等が、子ども中心の学び、子ども参加を理解し、実施するきっかけとなる




教育協力NGOネットワーク JNNE

子ども中心の(子ども参加を促す)
学習普及ガイドラインの開発

教育協力NGOネットワーク(JNNE)
代表 片山信彦




教育協力NGOネットワーク JNNE

教育協力NGOネットワーク

- ・教育協力NGOネットワーク
(Japan NGO Network for Education: JNNE)
- ・目的: EFA目標達成に貢献すること。教育協力
に関わるNGOのネットワーク組織
- ・設立: 2001年1月
- ・活動: 情報交換、調査研究、能力強化、
政策提言、広報活動
- ・会員団体: 28団体、2大学(2007年11月)

<http://jnne.org/>

jnne
教育協力NGOネットワーク JNNE

1 事業の目的・背景

目的:
教育分野の活動を開始または現在行っている
NGO、政府機関、援助関係者に有益なツールとなる
ことを目的に、
 開発途上国の教育状況に適したかたちで、
子ども中心の(子ども参加を促す)学習(学校内
外の活動)の普及をめざすガイドライン(日・英)
 を開発する。

jnne
教育協力NGOネットワーク JNNE

1. 事業の目的・背景

・就学率の向上
・落第、退学率の低減

学習環境の改善
教材の普及改善

生活環境の改善
生活水準の向上

<課題>
教育の質改善
・学習達成度の向上
・学びへの意欲の向上

学習者中心 (学校内)

子ども

自尊の意識を高める
参加の態度を学ぶ (学校外)

多くの開発途上国で教育の質改善が求められ、「学習者中心」への転換は重要課題。教育の質改善は就学率向上と、就学率は生活水準の向上と密接な関係にある。

本ガイドラインは、学校内外での子ども中心の活動、社会への子どもの参加に焦点を当て、それを促す支援者(NGO、政府機関など)のための手引きをめざす。NGOなどによる様々な実践があるが、ガイドラインの整備は未だ十分とはいえない。経験、知見に裏付けられたガイドラインを作成する。

1. 事業の目的・背景

子ども中心の定義

- ジョン・デューイによる「子ども中心」の概念
- テーマも教授法も子どもが自分で決める方法

子ども参加の定義

- 「子どもの権利条約」によって認められた権利
- 子どもたちが自分自身に関係あることについて、意思決定のプロセスに参加すること
- 3つの参加のかたち
 - ①子どもが大人との協議に参加する
 - ②子どもが参加型の取り組みをする
 - ③子どもが自ら社会に働きかける力をつける

2 事業の実施体制・活動内容

実施体制:

教育協力NGOネットワーク(JNNE)の加盟団体である、ワールド・ビジョン・ジャパン、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、チャイルド・ファンド・ジャパン、シヤンティ国際ボランティア会、開発教育協会、外部専門家によって構成したタスクチームを中心に実施。





教育協力NGOネットワーク JNNE

2 事業の実施体制・活動内容

活動内容:

①研究会の実施
 NGOによる子ども中心・子ども参加を促す取り組みの良い事例を共有し知見を集約する。

②事例分析・ポイント整理
 子ども中心の学び・子ども参加を促す活動の先駆的な事例を集め5つの視点で分析し、子ども参加を実施する際のポイントを整理する。

<5つの視点>

- (1) 組織と人の準備
- (2) 子どもに対する働きかけ
- (3) 計画
- (4) 実施
- (5) モニタリング・評価

その他
 ・本事業への効果





教育協力NGOネットワーク JNNE

2 事業の実施体制・活動内容

活動内容:

③ガイドライン案の作成、編集
 出されたポイントを基に、「子ども参加を促す学習普及ガイドライン案」を執筆、編集する。

④現地での視察・検証
 ガイドラインの汎用性、妥当性を、実際に行われている事例を視察し、インタビューなどを通してさらに深く検証する。

■視察・検証先

- ・バングラデシュ 子どもクラブ by プラン・バングラデシュ
- ・ネパール チャイルド・エンパワメント・センター
 by セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

現地での視察・検証

■大人の意識改革のために

- ・子ども参加の活動実績を大人が知る機会を増やす
- ・子どもの準備が来ていることを見せる

■NGOの役割

- ・子どもの参加、教育の質とは何か、についてNGOスタッフ間、子どもやコミュニティと共有認識を持つ
- ・進行(プロセス)の主役は受益者自身であることの認識

子どもクラブの寸劇の様子 (プラン・バングラデシュ)



子どもクラブで活動する子ども
(プラン・バングラデシュ)



チャイルド・エンパワメント・
センターの子どもたち(ネパール)



チャイルド・ライツ・
プロテクター(ネパール)



2 事業の実施体制・活動内容



活動内容:

⑤ガイドライン案の修正・最終版の作成
検証作業を基にガイドライン案を修正し、完成させる(和文、英文)。

jnne
教育協力NGOネットワーク JNNE

3 活動成果

①成果物(ガイドライン最終版)の作成:
海外での視察・検証を経て、「子ども参加を促すガイドライン(最終版)」を作成する。

②ガイドラインの普及:
開発途上国で教育開発に取り組む国内外のNGOや政府機関、援助関係者にとって、子ども中心の学びや子ども参加を理解し、実施するきっかけとする。

jnne
教育協力NGOネットワーク JNNE

3 活動成果

・就学率の向上
・落第、退学率の低減

生活環境の改善
生活水準の向上

<課題>
教育の質改善
・学習達成度の向上
・学びへの意欲の向上

子ども

学校内

学習者中心

学習環境の改善
教材の普及改善

教員、校長の意識転換

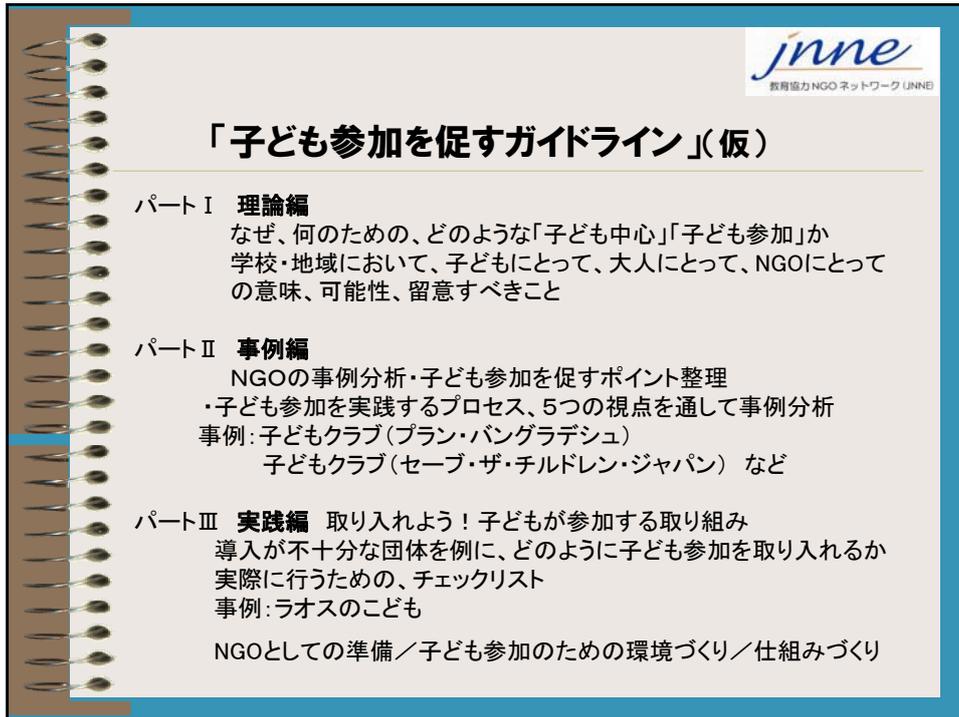
学校外

自尊の意識を高める
参加の態度を学ぶ

保護者、地域住民の意識転換

おとな

学校内での「子ども中心の学習」に留まるのではなく、社会・地域での「子ども参加」、教員・大人の意識変化が必須というのが、本ガイドラインの視点。



jnne
教育協力NGOネットワーク JNNE

「子ども参加を促すガイドライン」(仮)

パートⅠ 理論編

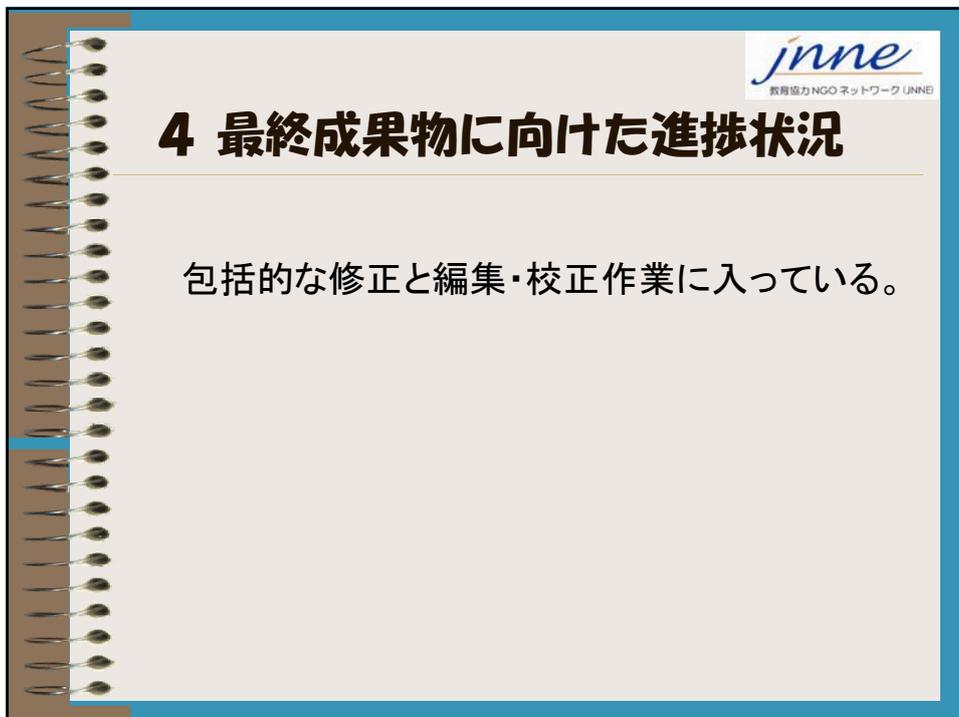
なぜ、何のための、どのような「子ども中心」「子ども参加」か
学校・地域において、子どもにとって、大人にとって、NGOにとって
の意味、可能性、留意すべきこと

パートⅡ 事例編

NGOの事例分析・子ども参加を促すポイント整理
・子ども参加を実践するプロセス、5つの視点を通して事例分析
事例：子どもクラブ(プラン・バングラデシュ)
子どもクラブ(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン) など

パートⅢ 実践編

取り入れよう！子どもが参加する取り組み
導入が不十分な団体を例に、どのように子ども参加を取り入れるか
実際に行うための、チェックリスト
事例：ラオスのこども
NGOとしての準備／子ども参加のための環境づくり／仕組みづくり



jnne
教育協力NGOネットワーク JNNE

4 最終成果物に向けた進捗状況

包括的な修正と編集・校正作業に入っている。

